

適応指導教室「あやばに学級」実践報告

～自立心を培い、集団への適応力を育てる支援の工夫～

石垣市立適応指導教室
指導教諭 金城 綾乃

I 適応指導教室「あやばに学級」の経営

1 学級経営目標

- (1) 心理的要因によって不登校や登校しぶりの児童生徒に対して、心身共に安心できる居場所を提供する。
- (2) さまざまな活動を通して、自立心と社会性を高め、集団への適応力を育てる。

2 めざす子ども像

- (1) 自分の気持ちを表現できる子・・・自分で考え、気持ちを伝えよう
- (2) 自分で決めて行動できる子・・・目標を決めて挑戦しよう
- (3) 思いやりのある子・・・思いやりと感謝の気持ちをもとう
- (4) 明るく元気な子・・・生活リズムを整え明るく元気に活動しよう

3 経営方針

- (1) 個々の児童生徒に対して教育相談、学習指導、集団生活への適応指導等、柔軟に対応し、めざす子ども像の具現化に努める。
- (2) 多様な体験活動や遊び等を通して生活体験を広げ、人と関わる力の育成に努める。
- (3) 児童生徒個々の指導・援助の在り方について、原籍校関係職員や「あやばに学級」担任・指導員との共通理解を図り、一貫性のある指導・援助を行う。
- (4) 日常生活全般における児童生徒の実態や指導・援助の記録をとり、次の支援の手がかりにする。
- (5) 学校・家庭・各関係機関等と連携を密にし、協力しながら児童生徒の学校復帰と将来の社会的自立に向けた支援体制を整え個々に応じた指導・援助を行う。
- (6) 児童生徒の指導・援助にあたっては、次のような記録簿を作成し、報告する。
 - ◇ 原籍校への出席状況報告書（毎月1回）
 - ◇ 支援日誌
- (7) 児童生徒理解の促進、変容に応じた指導・援助に活用する。
 - ◇ 生活日誌
 - ◇ 面談シート
 - ◇ プロフィール
 - ◇ 個別の教育支援計画
 - ◇ 経過観察フォーム
 - ◇ アンケート
- (8) 原籍校の一員であるという所属感をもたせるため、原籍校の学級担任や教育相談担当等による支援をお願いする。
- (9) 個々の児童生徒の実態把握を行い、適切な支援方法を検討する機会をもつ。
 - ◇ 学校における支援会議やケース会議への参加
 - ◇ 専門家、福祉等関係機関との情報交換・連携
 - ◇ 沖適連や他適応指導教室との情報交換・連携

4 家庭・原籍校・適応指導教室の役割と連携

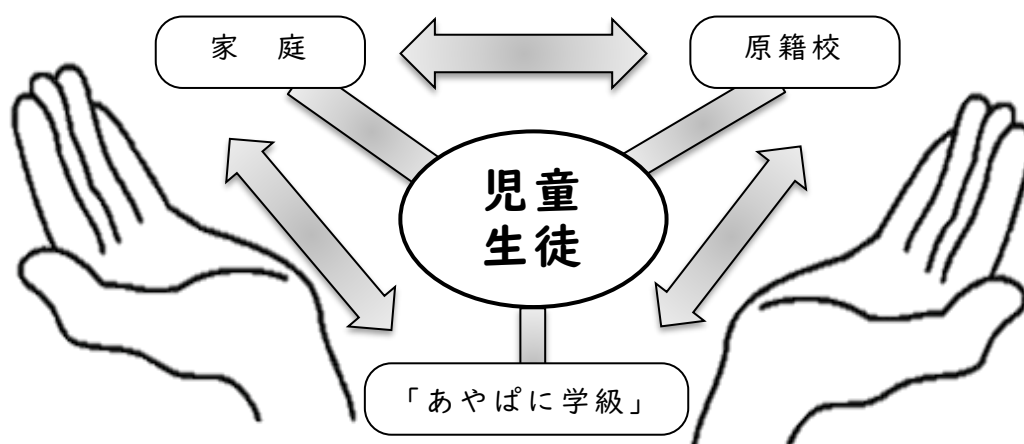


図1 連携のイメージ

家庭

- ・ 基本的生活習慣を確立し、生活リズムを整えさせる。
- ・ 在籍学級及び「あやばに学級」との連携・協力
- ・ 定期的な来級相談（お子さんの様子、家庭での気になること等情報共有）
- ・ 三者面談・保護者会等への参加
- ・ 登校支援
- ・ 各行事への参加

保護者との連携

- ① 保護者との連携・三者面談
- ② 学校からのおたより等の配布
- ③ 徴収金（学年費・教材費・給食費）の調整
- ④ 保健関係の諸調査の連絡・調整

原籍校

- ・ 担当者の明確化と「あやばに学級」と連携協力する窓口の設定
- ・ 原籍校担任による課題や家庭学習の取組
- ・ 「あやばに学級」への訪問
- ・ 評価、学校行事等に関する連絡・調整
- ・ チャレンジ登校する際の受け入れ体制の整備
- ・ 支援終結後の校内での居場所の確保・配慮

適応指導教室との連携

- ① 学習教材及び課題プリントの提供
- ② 校内支援会議への参加呼びかけ
- ③ 定期テストや提出物等、評価に関する連絡・調整
- ④ 進路指導及び高校入試に関する資料の提供・諸手続き

あやばに学級

- ・ 保護者及び原籍校の関係職員との連携
- ・ 保護者及び本人との面談（実態把握）
- ・ 原籍校学級担任等との面談（実態把握）
- ・ 不登校に至った児童生徒の経緯把握及びその理解
- ・ 入級児童生徒への段階的な指導・援助
- ・ 原籍校主催の会議等への参加
- ・ 毎月の出席状況報告及び支援日誌作成
- ・ 教育相談、来級相談への対応

5 あやばに学級の主な活動計画（例）

活動	具体的活動内容（例）
学習活動	学校の課題・テスト等 自主学習 出前授業 ICT 活用の学習
生活体験活動	朝・昼の清掃活動 調理実習（メニュー決め・役割分担等）
栽培飼育体験活動	菜園活動 観葉植物への水やり 青少年の家主催の事業
制作体験活動	掲示物制作 手工芸体験 美術や家庭科の課題制作
自然体験活動	遠足 登山
社会体験活動	職場体験 工場見学 進路学習 ことばの日
歴史文化体験活動	平和学習 施設見学 劇等の鑑賞
スポーツ体験活動	卓球 モルック フリスビー

Ⅱ 児童生徒の実態

1 学級の実態

(1) 学年別通級児童生徒

2 月末現在

		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	合計
男子	本			1	1	2				1	5
	体験	1					1	1			3
女子	本							4		2	6
	体験			3			1	1	1	1	6
合計	本			1	1	2		4		2	10
	体験	1		3			2	2	1	2	11

(2) 教育相談と見学の状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
教育相談	3	5	5	3	0	2	3	4	7	6	4	42
見学人数	0	4	3	3	0	2	3	3	7	2	1	28

※見学 28 名中 体験通級 11 名，本通級 10 名

(3) 通級児童生徒の様子

児童生徒の理解を図るため、「あやばに学級」見学時に本人・保護者・学校関係者を交えて面談を行う。児童生徒や保護者との面談・会話・相談シートなどから、不登校に至る経緯を把握する。児童生徒を多面的に捉えるために行動や会話、つぶやき、生活日誌の記録やアンケートなどをもとにしながら児童生徒理解につなげていく。

通級児童生徒アンケート（9 名）

○「学校を休み始めた」「教室に入れなくなった」きっかけは何ですか。

・原因がわからない，覚えていない	3 名
・友人関係	3 名
・体調不良 ・教室の騒々しさや先生の注意する声 ・緊張するから	3 名

※自分でも原因がはっきりわからない。人の多さ・騒々しさになじめないという個人での感じ方の差が出ている。

○学校を休んでいるときの気持ちはどうでしたか

・辛い，苦しい，焦る	4 名
・気が楽，何も感じない	2 名
・鬱っぽくなるけど寝たらよくなる	1 名
・親がどう思っているか不安	1 名
・体調が悪くていや	1 名

※「行かないといけない」という気持ちを持ち悩んでいる。心理的な不安が体調不良を及ぼしていることもある。

○「学校の支援室で過ごす良さ」は何ですか，「多く利用できない」のはなぜですか。

支援室の良さ	多く利用できない理由
・静かで人が少ない ・学校内だから学習課題の情報が入りやすい ・中へ入りやすい ・周りを気にせず勉強に取り組める	・友達に会いそうで不安 ・緊張する，怖い ・静かすぎて閉鎖的で合わない ・人の声が常にするから ・早く教室へ行かないというプレッシャーがある

※登校できる安心感が持てるものの，様々な理由で不安になる児童生徒が多い傾向がみられる。

○自分の将来について夢や希望がありますか。(近い将来でも OK)

ある	7 名	ない	2 名
・動物関係の仕事 ・漫画家 ・ゲームに関わる仕事 ・ワーキングホリデーへ参加したい ・自立して一人暮らしがしたい ・学校へ行けるようになりたい ・卓球の大会で県一位になりたい		わからない	

※ほとんどの児童生徒が近い将来も含め、夢や希望を持ち、なりたい自分、自分の就きたい職業を考えている。

○あやばに学級で過ごして、自分の変わったところがありますか。(複数回答)

・外に出るようになった。	4 名
・体調不良になることが減った	2 名
・勉強ができるようになった	2 名
・朝が起きられるようになった	2 名
・前向きな気持ちを持てるようになった	1 名
・とくにない	1 名

※多くの児童生徒が、これまでの自分の生活から変化を感じたようである。

○あやばに学級で経験したことで力になったことはありますか。

・自学自習ができるようになった	4 名
・勉強する気が起きた	1 名
・自己選択ができるようになった	1 名
・日誌の文が書けるようになった	1 名
・あんまりない	1 名

※自立心を培うための自己決定や自学自習の取り組みで力になったと感じている児童生徒が多い。

○4月には、どういう自分になっていたいですか。

・学校や進学先に登校する	4 名
・前向きに物事を考えられる人になっていた	1 名
・元気、健康	2 名
・ありのままの自分	1 名
・ゲームで勝てる自分	1 名

※ほとんどの児童生徒が、4月からは学校に行けるようになりたいと前向きな気持ちがある。

Ⅲ 支援の実際

1 安心できる環境づくり

(1) 日課表

日課表はあくまでも目安として活用し、月行事や週予定に応じて柔軟に対応した。

【原則として】

月曜日 スポーツ体験活動

水曜日 調理実習

金曜日 栽培飼育活動

登級人数や児童生徒の個々の状況に応じて対応していくものとする。日課表に合わせてチャイムを流し、時間のけじめや気持ちの切り替えができるようにした。

令和5年度 日課表						
「あやばに学級」						
時間 (分)	曜	月	火	水	木	金
30	8:30~ 9:00	登 級 (日誌記入)				
10	9:00~ 9:10	朝の活動				
5		休憩・準備				
45	9:15~ 10:00	学習活動①				
10		休憩・準備				
45	10:10~ 10:55	学習活動②				
10		休憩・準備				
45	11:05~ 11:50	スポーツ 体験活動	学習③	調理実習 昼食	学習③	栽培活
10		休憩・準備			休憩・準備	
30	12:00~ 12:30	昼食			昼食	
15	12:30~ 12:45	清掃				
30	12:45~ 13:15	準備・昼休み				
45	13:15~ 14:00	学習活動④				
5		休憩・準備				
45	14:05~ 14:50	学習活動⑤				
10	14:50~ 15:00	退 級 (日誌記入)				

表 1 日課表の例

(2) 居場所づくり

個人にロッカーと靴箱を割り当て、安心して荷物を置けるようにした。また、自己紹介シートやワークシートの掲示スペースを1人1人に一列設けることで視覚的に所属感を感じられるように工夫した。また、ワークシートにはコメントを記入して全体で共有できるようにした(写真1)。それぞれの自己紹介シートに記述されている「好きな○○」から、互いに好みが同じという理由で意気投合する場面もあった。ワークシートのファイルには取り組んだ課題を見て、学習内容が話題になり、できたことを褒めあったりするなどの姿も見られた。さらに、行事や日々の活動の様子の写真を集めたアルバムを作成し、児童生徒が目にする場所へ掲示することでいつでも自分達の活動の様子を写真で振り返らせるようにした(写真2)。



写真1 1人一列の掲示スペース



写真2 アルバムの掲示

(3) 音楽の効果

活動時間帯で音楽の種類を分けて音楽を流すことで一日の時間の流れを感じやすいように工夫した。「動」の時間帯には、流行のJ-POPなど、「静」の時間帯にはオルゴールやピアノ曲などをBGMとして流すこと気持ちの切り替えにつなげた。流れている音楽がきっかけで話が弾むこともあり、コミュニケーションツールの一つとしても活用できた。

時間帯	プレイリストパターン
朝のみどりタイム	流行曲 (J-pop 等)
授業中	オルゴール・ピアノ曲等
給食・清掃・昼休み	流行曲 児童生徒が好きな曲

(4) 掲示物の工夫

個々の学期のめあて等の掲示をして、児童生徒がいつでも目標を持って前向きに過ごせることをねらいとした。学期のめあてには、学習面・生活面に加え、学校を意識させるために「チャレンジ登校」の項目を設けた。自分のペースに合わせた具体的な目標を設定し、学校復帰を目指すきっかけになった。また、「健康・運動」の項目も加えたことで、自分の生活リズムを見直し、毎日通級するための習慣作りのきっかけになった(写真3)。

日々の活動で制作した作品を掲示し、児童生徒一人一人が持っている得意なことを紹介するようにした。漫画やイラスト、毛筆の作品、クラフトアートなどがあり、「これ誰が描いたの?」「すごいね」など互いの良さを認めてやる場となった(写真4)。



写真4 児童生徒の作品

見通しをもって過ごせるように、本学級と各学校の月行事の掲示を行った。掲示物を見ることで、保護者も行事への参加ができるよう励ましてくれ、準備などの協力を得ることができた。また、行事の写真を掲示し、写真を通して活動を振り返り、喜びや達成感が感じられるように工夫した。保護者や来級者に児童生徒の活動の様子を見てもらう機会にもなり、写真から話題が膨らんでコミュニケーションをとることもつながった(写真5)。



写真3 各学期のめあて



写真5 月行事の掲示

2 信頼関係を築く児童生徒理解

(1) 生活日誌

児童生徒が、毎日登級時と退級時に記入する。起床時刻・就寝時刻・朝食の有無等を記入し、その日の体調や家庭での様子を知ると共に、基本的な生活の習慣化を促した。また、目標を設定し退級時に一日の学習や活動を振り返ることで、自己評価ができるようにした。通級し始めた時は目標を立てるのに時間を要したり、感想が1行や2行だったりした生徒も、数ヶ月後には文字数が増え、自分の素直な気持ちや前向きな言葉を書くなど、変容が見られた。

さらに、登級時と退級時の気分の割合を色で表すことで、児童生徒の心の動きを知ることができ、支援の手がかりとして活用した。全職員が毎日コメントを入れ、励ましの言葉かけを行うことで、次のステップへ繋がるよう心がけた(図2)。

生活日誌			
令和5年 11月 20日 曜日			
昨日、寝た時刻	起床時刻	登校時刻	朝ご飯
時 分	時 分	時 分	食べた / 食べない
今日の目標		自己評価	
学習・活動 (やったことを書きましょう!)			
午前		登校時にあいさつができた ()	
午後		通級活動に積極的だった ()	
今日の振り返り (よかったこと、がんばったこと、感じたことを書きましょう!)			
今日の反省 (できなかったこと、がんばらなかったこと、感じたことを書きましょう!)			
登校の気分		登校の気分	
0 50 100		0 50 100	

図2 生活日誌

(2) 支援日誌

日々の児童生徒の様子や活動内容を本学級職員で記録し、支援の手だてとした。また、欠席した日も保護者から欠席理由や家庭での様子を連絡してもらう等、保護者との連携を密にし、児童生徒の実態把握に務めた。さらに Teams のチャットを活用して、支援日誌を週一回原籍校の担任へ送信しその週の児童生徒の様子を共有できるようにした。そして、翌月に出席状況報告書と一緒にひと月分の支援日誌を学校長へ提供した。学校職員と共通理解を図ると共に、本学級で取り組んだ学習や活動を、スムーズに学校の評価に繋げてもらう為に、教科に加えて単元名も入れる等、具体的な内容の記録を心がけた(図3)。

令和5年度 支援日誌									
在籍校		石垣市立△△小学校 □年□組							
氏名		〇〇 〇〇〇				・児童生徒の様子 ※支援 □学校・その他			
月 日	曜日	通級の様子			活 動 内 容				
2/19	月	登	9:35	送迎	午前	学活(アンケート、コグトレ)	午後		
		退	12:00						
・学活は、通級児童へのアンケートに回答した。うまく言葉で表現できないことが多い様子だった。 ・コグトレは、「間違い探し」「悩みのアドバイス」「コグトレ棒」をした。友達ができないことに悩んでいる子へのアドバイスを出し合った意見で、「一人の時間を楽しむ」という意見もいっと思うと話していた。									
2/20	火	登	9:30	送迎	午前	算数 理科(じしゃく) 学活(タブレット)	午後		
		退	14:00						
・理科は以前に学習したじしゃくの実験を思い出してテストプリントを解いた。ところどころ忘れていたことは、具体物を出して実験をしながら結果を見て応えることができた。 ・学活は、タブレットでプログラミングをして過ごした。 ・空いた時間に級友と卓球をしたり、昼休み時間は園庭で級友とボール遊びをして汗を流していた。									
2/21	水	登	8:45	送迎	午前	総合(イモ収穫祭)	午後	総合(イモ収穫祭)	
		退	15:05						
・青少年の家のいも収穫祭に参加した。さつまいもの収穫の際、鍬をうまく使って土を掘り返すことができた。収穫できたことに笑顔になる姿が見られた。野外炊飯では、カンダパー汁を担当した。だんごを丸い形に作る作業が大量にあったが、最後まで責任をもってやり通していた。また、具材のポーク缶を切る作業も進んでやってくれ、上手に包丁を扱っていた。感想では、「切ったり丸めたりが楽しかった。ずっと芋の世話をしてくれてありがとう。」と職員へのお礼も書かれていた。									

図3 支援日誌

(3) 家庭・学校との連携指導

家庭・学校との連携は、安定した環境づくりのために不登校児童生徒にとって欠かせないものである。家庭とは定期的な面談や送迎時の談話の他、電話連絡やショートメール等を利用してこまめに連絡が取りあえるようにした。また、原籍校とは、昨年度に引き続き「連絡ファイル」を作成した(図4)。さらに、Teams でチャット機能を利用してデータ文書のやりとりをすることで、迅速に文書を収受し、連絡等を密に行うことができた。

① 家庭に対して

- ・学期ごとの面談資料作成
- ・あやばに通信(学級だより)
- ・登級時、退級時の情報交換等
- ・必要に応じて家庭訪問

② 学校に対して

- ・出席簿や支援日誌の提供
- ・「連絡ファイル」での課題やお便りの受け渡し
- ・ワークシートへのコメント依頼等
- ・チャット機能での週報や週案の提出、連絡

あやばに学級 連絡ファイル

年 組

△学級担任、各教科担任の先生へ△

授業で使うプリントや配布資料等を入れてください。



※ 毎週水曜日の『メールカー』に乗せてください。

児童生徒と相談し、チャレンジ登校ができる日は、一緒に受け取りに行きますので、よろしくお願いいたします。

TEL・FAX (0980) 83-6388

図4 連絡ファイル

3 学習意欲を高める具体的な活動

(1) 学習形態

学習形態は、個別学習を中心に職員が支援し、学習の進度に合わせて学校からの課題への取り組みを行った。また、時には同学年や異学年、全員など学習形態を変えて内容に応じて級友同士も関わり合えるようにした。

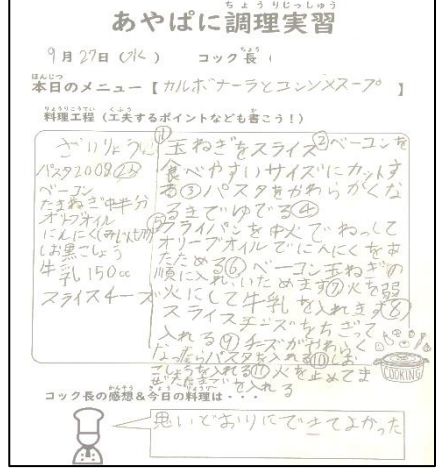
個別学習	主に、学校の課題への取り組みを行った。教科書を使ってプリント課題やワークなどを中心に学習し、学校へ提出できるようにした。また単元テストや定期テストに向けての対策、技能教科課題への取り組みを行い評価につながるよう努めた	
異・同学年での学び合い	基本的には、個別学習で進めていくが、同学年で一緒に学習を行い共に学ぶ場を設定した。図工や理科等の作品作りをしたり、実験をしたりして一人ではできない気づきを見つけたり、互いの良さを褒めあうことに繋がったりした。 また、異学年との学習では、コミュニケーションを図ることを目的に取り組ませた。自然と上級生が下級生に教える姿もみられた。	 
ICTの活用	一人一台の端末を用いて、AIドリルの課題に取り組んだ。自分が学びたい教科や単元で学年を遡って復習するなど、自分のペースでできるという安心感の中で学習を進めることができた。また、オンラインで学級活動へ参加したり、「Class room」や「ロイロノート」で教科から出た課題を提出したりして学校や学級と児童生徒が繋がるようにした。	

(2) 級外講師との学習

ALTとの関わり	毎日の学習がマンネリ化しないように、専門的な学習が受けられるという点から級外講師を招いての学習も取り入れることができた。ALTは石垣市教育委員会より派遣され、交流する機会が持てた。ALTとの授業は、レクレーションを楽しみながらネイティブな英会話を直に学ぶことができた	
原籍校の先生との関わり	原籍校教諭来級の際には、数学の問題の解き方や、美術の技法を教わるなど専門的な指導をしていただいた。また、原籍校の担任が来級し、児童生徒の登級の様子を見に来て励ましの声をかけていただいたり、一緒に卓球の相手をしていただいたりした。担任の来級には、どの子も笑顔が見られ生活日誌などに嬉しかった気持ちが記述されていた。	  

4 様々な体験活動

(1) 生活体験活動

朝・昼の清掃活動	登級後は10分ほどの朝活に毎日取り組んだ。花壇への灌水や、落ち葉の掃き掃除を担当し、責任をもって活動していた。昼食後の清掃活動は、自分たちで役割を決め教室や多目的室、階段などを中心に行った。清掃前には、自分の食べたお弁当箱を自分で洗い、作ってくれた人への感謝の気持ちを持つことと、自立への一つとして継続させた。 												
調理実習	<table border="0"> <tr> <td>第1回 5月31日ゼリーづくり</td><td>第2回 6月14日ホットケーキ</td></tr> <tr> <td>第3回 7月4日タコライス</td><td>第4回 9月8日おにぎり</td></tr> <tr> <td>第5回 9月27日カルボナーラ</td><td>第6回 9月29日お月見団子</td></tr> <tr> <td>第7回 11月8日ハンバーグ</td><td>第8回 11月29日八重山そば</td></tr> <tr> <td>第9回 12月11日クリスマスメニュー</td><td>第10回 1月12日ぜんざい</td></tr> <tr> <td>第11回 1月22日ピザ</td><td>第12回 2月28日たこ焼き</td></tr> </table>  「買い出し」 「ピザ作り」 「そば作り」 「カルボナーラ作り」 調理実習は、月に2回程行った。前期は、児童生徒の様子をみてランダムにコック長を決めて取り組んだ。コック長は、料理のメニューと必要な材料を調べて買い出しを行い、調理は全員で担当を割り振ってお互い協力しながら作ることができた。後半は、職員から行事食を提案し、お月見団子づくりや、沖縄そばの日になんでそば打ちをした。また、菜園でとれる農作物を生かしてできるピザづくりなども行った。毎回、役割を変えることでいろんな作業を担当し、自分の役割が終えたら他の作業を手伝うといった心配りができるようになった。  「ハンバーグ」 「カルボナーラ」  コック長，責任 もって買い出し中  料理工程の計画書	第1回 5月31日ゼリーづくり	第2回 6月14日ホットケーキ	第3回 7月4日タコライス	第4回 9月8日おにぎり	第5回 9月27日カルボナーラ	第6回 9月29日お月見団子	第7回 11月8日ハンバーグ	第8回 11月29日八重山そば	第9回 12月11日クリスマスメニュー	第10回 1月12日ぜんざい	第11回 1月22日ピザ	第12回 2月28日たこ焼き
第1回 5月31日ゼリーづくり	第2回 6月14日ホットケーキ												
第3回 7月4日タコライス	第4回 9月8日おにぎり												
第5回 9月27日カルボナーラ	第6回 9月29日お月見団子												
第7回 11月8日ハンバーグ	第8回 11月29日八重山そば												
第9回 12月11日クリスマスメニュー	第10回 1月12日ぜんざい												
第11回 1月22日ピザ	第12回 2月28日たこ焼き												

(2) 栽培体験活動

農業体験	年間を通して、花壇や菜園での栽培活動を行った。種から育てることで、芽が出た時の喜びや、観察時の成長、収穫できる喜びを味わっていた。収穫できた野菜は、調理実習で使う以外にも各家庭へ持ち帰らせ、家族にも喜んでもらえた。苦手だった野菜も食べてみようという挑戦する児童生徒がいた。 「バジル」 「ほうれん草」 「レタス」 「オクラ」 「きゅうり」
「青少年の家」主催の事業	6月26日 芋植え（沖夢紫・黄金芋） 9月12日 補植作業 11月8日 じゃがいも植え 2月21日 あやばに収穫祭（芋ほり・芋料理） 青少年の家主催の体験事業では、級外活動において多大なご協力をいただいた。栽培体験活動のほか、野外炊飯では、火おこし体験、芋料理作りなど級内ではできない体験活動ができた。 いも植え体験では、自分で切った苗を全部植えることができ良かったです。カレー作りでは、火の係をしてがんばりました。自分たちで作ったカレーを食べたらすっごくおいしかったです。次に機会があったら野菜を切る係をやりたいです。（いも植えの感想・小4男子） いもから様々な料理ができてとても驚きました。いもを洗ったり皮をむいたりが大変だったけどとても美味しかったです。特に美味しかったのは、天ぷらとポテトチップスです。この経験を生かして家でも作ってみたいです。（あやばに収穫祭感想・中1女子） 6月にいもを植えるとき、調理実習の時までに「大きくなってね」と思いながら植えました。今日無事にいも料理の調理実習ができてうれしかったです。（あやばに収穫祭感想・小4男子）

(3) 制作体験活動

かごづくり	第1回 5月26日（金） 講師：西原貴和子所長 〈ねらい〉 工作活動を通して想像力を育み，達成感を味わう。 ダイソーの商品でペーパークラフトバンドキットを使って，好みの色や形を選び，作成した。複雑な編み方も互いに教えあいながら完成を目指した。完成後はニスでコーティングして仕上げた。  かごが自分で作れてうれしい。お母さんに見せたいので早く持って帰りたいです。何を入れようか楽しみです。（小4男子）
染物体験	第2回 7月14日（金） 講師：西原貴和子所長 〈ねらい〉 身の回りの草木を使って染める体験を通して，自然に親しみ，草木の持つ色だけでなく，化学反応を起こして発色する面白さを味わう。 級庭の花壇で育てているマリーゴールドの摘花したものを収集し，材料として使った。染める物は，さらしを手ぬぐい，巾着袋やよろず袋に縫ったものにした。きれいな黄金色でみんな大満足の体験だった。  マリーゴールドの汁で染める前に牛乳につけることを初めて知り，びっくりしました。模様はあまりつかなかったけど、きれいな色に染まってうれしかったです。（中3・女子）
パインキーホルダー	第3回 9月13日（水） 講師：西原貴和子所長 〈ねらい〉 お世話になった祖父母へ敬老の日を送るプレゼントを作る。  こちら材料は，クラフトバンドを使った。完成後はメッセージと一緒にラッピングして，祖父母へ贈ることができた。

星 コ ロ づ く り	第4回 12月6日（水） 講師：西原貴和子所長 星の形をした昔から伝承されているおもちゃ。指で挟み息を吹きかけてくるくる回して遊ぶ。昔はアダンの葉で作っていたそうだが今回は PP バンドを使って作成し、クリスマスの飾りにした。  
----------------------------	--

(4) スポーツ体験活動

モ ル ツ ク ・ 卓 球	毎週月曜日の3校時を「スポーツ体験活動」と位置づけた。今年度は、年齢や技術・経験を問わずに誰でも楽しめる「モルック」というスポーツを中心に行った。ペアや個人など、参加人数に応じてチームを編成でき、異年齢でもルールを教えあいながら気軽に参加できた。   
---------------------------------	---

(5) 自然体験活動

自 然 体 験 活 動	11月22日（月） 事前に児童生徒からのアンケートで遠足の目的地を募集した。「動物と触れ合いたい」「公園で遊びたい」という意見から、名蔵地区にあるヤギ広場を見学し、バナナ公園でクイズウォークラリーを楽しむ日程に決定した。動物に餌やりをしたり、広い公園内でクイズを探してウォーキングしたりして、いい汗を流した。子ども広場では、大きな滑り台をみんなで滑り、学級としての一体感を味わえた。    たくさんのヤギとブタ、ニワトリを見られて面白かった。クイズでたくさん歩いて足が痛かったけど、全部とけた。最後の滑り台でめっちゃくちゃ飛んで楽しかった。（中1・女子）
----------------------------	--

(6) 社会体験活動

工 場 見 学 ・ 職 業 体 験	10月25日（水）ソーセージづくり教室 講師：平野啓文・そのみ〈ねらい〉加工食品への興味関心を高め、食品加工の職業について知る。 石垣市福祉センターの調理場を借用し行った。初めて使用する機械や、作業工程だったが、講師に教わりながらオリジナルのソーセージを完成させることができた。  ソーセージの歴史を聞いたことがとても面白く興味がわいた。皮は腸でできていることに一番驚いた。ソーセージは、びっくりするほど美味しくていい経験だと感じた。（中1・女子）
---	--

1月24日（水）かまぼこ工場見学 金城かまぼこ店 	八重山の特産品であるかまぼこの工場見学へ行った。かまぼこの歴史や行事食には欠かせない食品であることを教えていただいた。実際に自分たちで作って揚げたてを味わうこともできた。
---	--

5 自立心を培う支援

(1) 自分で時間割を編成し自学に取り組む

登級して、日誌を記入する際に、今日自分が何を学びたいのか自分で考えて決めさせるようにした。「自分に足りない学習は?」「テスト前だからこの課題をやりたい」など自分で必要な教科、勉強以外に興味のある活動を選んで時間割を作成させた。はじめは何がしたいのかわからなかった児童生徒も「学校からの課題は来いますか?」と職員に聞いて学習内容を決めたり、自分の特技や興味関心のある活動として、絵を描くことや楽器を弾くことに時間を使ったりと自分でやりたいことを決めることができるようになった。

あやばに学級へ来るようになって、自己選択して決定するという力がつきました。また、自学自習をできるようになりました。(アンケートより抜粋中3・女子)

(2) 他機関とのかかわりでコミュニケーション力を育む

通級児童生徒に、コミュニケーション能力に不安を持っている子もいる。そのため、沖縄県立石垣青少年の家、八重山警察署生活安全課少年係の方、教育研究所研究員、青少年センターの同年代の児童生徒など、広く多くの人とかかわる機会を持つことで、人見知りや初対面の人に対しての苦手意識を少しでも取り除けるよう心がけた。

沖縄県立石垣青少年の家・八重山警察署生活安全課少年係とのかかわり

いも植えや、その収穫祭といった栽培活動において多大なご協力をいただいた。また野外炊飯では職員が児童生徒との組み合わせを作り、一緒に活動してくださった。その際には児童生徒へ励ましの声を積極的にかけてくださり、貴重な交流をすることができた。



青少年センター通所児童とのかかわり

あやばに主催の行事に声かけしたり青少年センター主催の行事と一緒に参加したりすることができた。学校や学年が違ってても、ともに活動へ参加することで、作業の最中に会話が生まれるなど異年齢や同年代同士でかかわることへつながった。



教育研究所研究員とのかかわり

10月から教育研究所へ入所した2名の先生方へ、歓迎の横断幕を作成した。お渡しする前に、自己紹介や挨拶などを事前に練習し、自信をもって声を出せるようにして行った。研究員の先生方から喜ばれたことで児童生徒も、「作ってよかった。」と嬉しそうにしていた。



(3) コグトレの実践

コグトレとは、「認知〇〇トレーニングの」略称で、〇〇の中に「ソーシャル（社会面）」「機能強化（学習面）」「作業（身体面）」の言葉が入る。学校や社会で困らないために3方面（社会面、学習面、作業面）から支援するプログラムを本学級でも実践してきた。

実践①感情をうまくコントロールできるトレーニング

対人スキルを身につけるトレーニングでは、「自己感情のコントロール」「他者への共感」などを実践した。悩みの例を挙げてアドバイスしてあげるというトレーニングで、参加した児童生徒は、自分の意見を持つことができ、他者のアドバイスの良さを見つけることができていた。

〈まゆみさんの悩み〉
私は、学校に一人も友達がいません。休み時間も一人です。みんなは友達と楽しそうにしています。友達をつくるにはどうしたらいいのでしょうか？

無理に友達をつくらなくてもいいと思います。一人の時間をどれだけ楽しく過ごせるかが大事だと思います。もし、一人でいるのが嫌で友達をつくりたいなら声をかけてみることを意識したらどうでしょう。（中1・女子）

「無理に友達をつくらなくてもいいというのが、自分になかったからいいと思った。」（小6・男子）

実践②注意力をつけるトレーニング

認知機能をアップさせ、学習の土台となる見る力、聞く力、想像する力をつけるトレーニングを実践した。主にワークシートを使って5～10分程度の活動である。まったく同じように見える絵をじっくり見て間違いを探したり、耳から得るお話だけを聞いて順番を答えたりなど、集中して取り組むことができた。



実践③身体をうまく使うトレーニング

身体的不器用さが問題にならない子どもたちにとっても身体を効率よく使う、身体を使って集中力をつける、コミュニケーション力をつけるというトレーニングを行った。コグトレ棒という新聞紙を棒状に丸めたもので、全身のストレッチ体操やペアでのキャッチ運動、全体での息を合わせた移動運動などを取り入れた。指定された部位をつかめず、相手と息が合わずに落としてしまう場面もあったが、何度かトレーニングするうちにうまく扱えるようになってきた。



6 学校復帰を目指すチャレンジ登校

児童生徒の本学級への登級と心理面が安定してくると、本人と相談しながら段階的にチャレンジ登校を進めていく。当日朝の気分を確認し、必要な学習や興味のある行事などへの参加を促しチャレンジ登校を実施している。チャレンジ登校に向けては、平成28年度の研究員与那國充子教諭が作成した「学校生活に適應するまでの支援の構想図」をもとに、個に応じた登校の仕方を検討し、進めてきた。

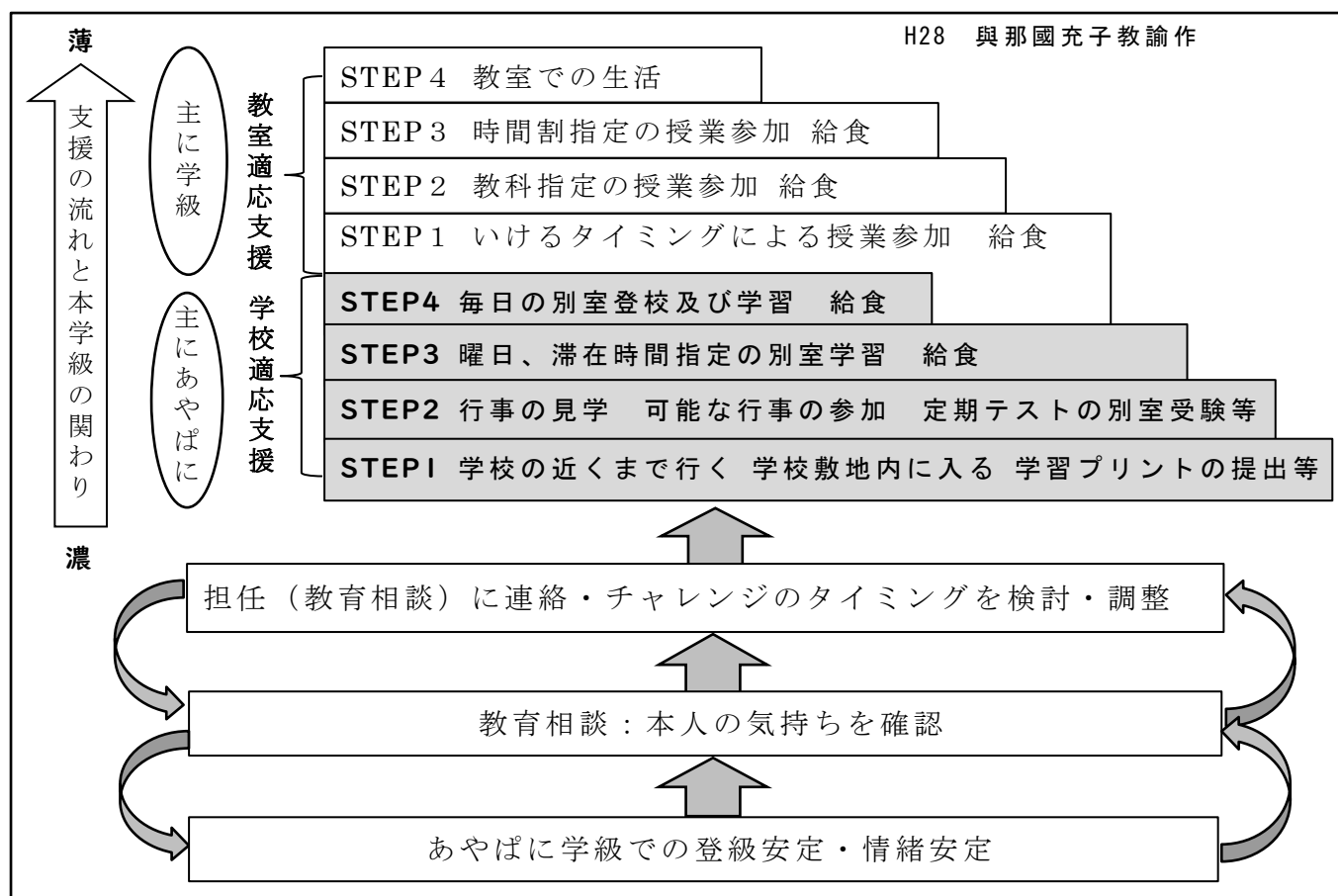


図7 学校生活に適応するまでの支援の構想図

(1) 今年度のチャレンジ登校状況(令和6年2月末の在籍15中のべ人数)

主にあやばに：学校適応支援		人数
STEP 1 学校の近くまで行く 学校敷地内に入る 学習プリントの提出		10 名
事例) 課題プリントやノートの提出 単元プリントを取りに行く		
STEP 2 行事の見学 可能な行事の参加 定期テストの別室受験等		6 名
事例) 体育祭への参加 合唱コンクールの見学 運動会・伝統行事への参加 始業式・終業式への参加 定期試験受験		
STEP 3 曜日、滞在時間指定の別室学習 給食		3 名
事例) 通級指導で 1 時間だけ支援室で学習 図書館利用の予約を入れ、図書館へ行く		
STEP 4 毎日の別室登校及び学習 給食		1 名
事例) 登級できた日は毎日支援室に行く		

主に学級：教室適応支援		人数
STEP 1 いけるタイミングによる授業参加 給食		3 名
事例) 登級した際に今日の時間割で入れそうな授業へ参加		
STEP 2 教科指定の授業参加 給食		3 名
事例) 国語・理科・家庭科だけは毎時間受けに行く		
STEP 3 時間割指定の授業参加 給食		1 名
事例) 1 週間に 2 ～ 3 日は行く		
STEP 4 教室での生活		2 名
事例) 行ける限り毎日登校する		

(2) チャレンジ登校への手立て

① チャレンジ登校を一緒に相談・計画

チャレンジ登校を始めるのは、とても勇気がいるため、きっかけが必要となる。そのため、登級が安定してきた児童生徒に対して、原籍校の担任からの週案を見ながらチャレンジできそうな授業、行事の計画を立てた。どうしたらチャレンジ登校しやすいか本人の要望を細かく聞き、調整を行った。

② チャレンジ登校の振り返りと担任とのつながり

チャレンジ登校ができ、教室に入ることができても担任の先生と通級児童生徒はゆっくりコミュニケーションを取ることができない場合が多い。そこで、適応指導教室に戻った際にチャレンジ登校の振り返りをし、児童生徒の感想を原籍校担任へ伝える取り組みをした。担任の先生には丁寧に対応していただき、担任のコメントを読む児童生徒は笑顔も見られた。

③ 学校の職員や担任による児童生徒への声かけ

学校の「生徒支援」担当の職員や担任の先生方が、本学級へ来級して児童生徒の顔を見に来てくれ、課題やお便りを届けてくれたりした。また、チャレンジ登校の際に、名前を呼んで声をかけてくれ、協力的に児童生徒と関わっていただいた事で、安心感を持って、学校にチャレンジ登校することができた。

IV 一年間を振り返って

1 成果

(1) 学級目標：心身共に安心できる居場所を提供する

- ① 学級経営の充実を図るとともに、児童生徒個々の課題に目を向け、意識して関わり方の工夫をすることで、自己有用感を高めることができた。
- ② 教室の環境づくりを工夫することで安心して登級し、前向きに学習に取り組めるようになった。

(2) 学級目標：自立心と社会性を高め、集団への適応力を育てる

- ① 様々な体験活動へ参加し、他者との関わりの中で多くの経験を通して、自信を取り戻し、自立へと向かわせる一歩となった。
- ② 原籍校に割り当てられたスクールカウンセラーの時間を活用して、あやばに学級での面談を行い、生徒の現状を知ることで、関り方や支援へ活かすことができた。
- ③ タブレット端末を積極的に活用することで、自分自身の学びの足あとがわかり自主学習の時間を充実させることができた。
- ④ 保護者が連絡をしやすいようにショートメールや SNS を活用したり、送迎に様子を伝えあったりすることで良好な関係を築き学校適応を進めることができた。
- ⑤ タブレット端末を活用して学校の学習課題やテスト対策に取り組ませたことで、評価に結びつけることができ、児童生徒の意欲に繋がった。

2 改善点

- (1) 基本的な生活習慣の確立のための家庭との連携
- (2) 登級しぶりの児童生徒への登級支援についての工夫
- (3) 通級児童生徒の増加に伴う学習スペースの整備
- (4) 原籍校職員への定期的な来級の呼びかけの工夫

